

新緑が目映え、清々しい春の風を頬に優しく感じる今日のよき日に松山東雲女子大学一〇一名、松山東雲短期大学二四三名、三四四名の新入学生の皆様が東雲の仲間に加われたことを大変嬉しく、そして誇りに思います。

さて、この東雲の歴史は今を遡ること一三五年前、一八八六年の春、重松テイという少女がもっと勉強がしたいと二宮邦次郎牧師の門戸を叩いたところから始まっています。これは単なる知識欲ではなかったと思われます。当時の男性が中心であった社会状況を考えると、自らをより高みへ、そして、社会に認められ貢献できることを希求することの表れであったのではないかと思います。

そして現代に生きる皆様、この桑原キャンパスの新入生の皆様はこれからの四年間あるいは二年間の学生生活の中で自ら何を求め、何を得て、未来の自分自身への贈り物を用意することができるとでしょうか。

近年、様々な分野で個人の能力に対して非認知能力という言葉をよく耳にするようになりました。この非認知能力というのは単なる知識量や学習速度では無く、知りたいと言う意欲や自分で粘り強く調べる力のことを意味します。これから始まる大学生活は常に問いを求める姿勢を持ち続け「何故?」、「どうして?」、「他には?」と言う疑問を授業での学びは勿論、大学生活全ての活動と経験に対して継続して持ち続けて欲しいと思います。

そのようにして得られた知識や技術は皆様のおかげがない宝物となるでしょう。その宝物の使い方について、今年の二月二日アマゾンのCEOから会長に就任したジェフ・ベゾス氏が重要な示唆を与えてくれています。彼は自らの経験で祖父から賢い人になるより優しい人になる方が難しいと言われたそうです。賢い人というのは才能のある人であり、優しい人は選択のできる人ということのようです。言い換えればすでに自分自身の内にある知識や才能を使うのは簡単です。その知識や才能をいつどこで誰に対して使うか、あるいは使わないかの選択が人の価値を左右すると祖父からの言葉で気がついたと言っています。

我々ひ弱な人類が地球上で文明を発展させることができたのは他の動物たちと違って社会性が非常に強い生物であったからと言われています。人の和とか絆と言われる目に見えない人と人をつなぐ糸を大切にしてきたからであると言えます。自分自身を取り巻く全ての人たちの尊敬を大切にしながら関わり、接してください。皆さんの学舎はこの桑原キャンパス内で完結するのは無く、広く学外にも、その学びを基に、未来の自分自身への贈り物の材料を求めて欲しいと思います。茶道の世界には一期一会という言葉があり、この場所でこの時はもう二度とないので、今この時間を最高のおもてなしで共有したいという意味だそうです。長い時の流れの中で人と人の繋がりを大切に、人の輪や絆を求め培ってきた貴重な人類の文化です。

まだまだ新型コロナの感染症対策で学生生活に制限が続くかもしれません。しかし、感染症は永遠に続くわけではありません。未来の自分自身の対する贈り物を求めてブラッシュアップし、モチベーションを高く保ちながら卒業と言うゴールを目指して欲しいと思います。それが、個々人の中に求められるSDGsでは無いかと思います。

簡単ですが、入学式での私からの祝辞とし、最後に東雲の新しい仲間となられた皆様にあらためて、入学のお慶びを申し上げます。

ご入学、誠におめでとうございます。

二〇二二年四月二日

松山東雲女子大学

松山東雲短期大学

学長 高橋圭三